

〔雪村展によせて〕

雪村の「竹菊に蠶螂図」と「列子御風図」について

雪村はいろいろな形式と描法を用いて、いろいろな主題の画を描いています。現在、およそ150点の雪村画がわかっていますが、同じ画は一点もありません。しかし、どの画にも一貫して、雪村の人間的な暖かさと強さ、機智の精神が流れています。そして、晩年に至って、雪村の孤独感が画面に浮かびあがってきています。

雪村は晩年の七十歳ごろ、奥州田村の片田舎の三春（みはる）に小庵を結びますが、このころから次第に、雪村の目は日常生活の小さなものに向けられます。瓜、茄子、蕪、梨、栗、葡萄、草花、蜂、蠶螂、蟹、猿などを題材にした小品がこの時期にさかんにつくられました。この「竹菊に蠶螂図」もそのような佳作のひとつです。

垂直にのびた細竹、それに寄りかかるように茎をのびた菊は自らの花の重みでたゆんでいます。そのたゆんでできた空間へ、一匹の蠶螂が獲物の蝶を追って飛び込んできました。

これは庭の片隅で属目した小さな出来事のようにですが、画家はそ

の情景を如実に写しています。

菊は植えたものではなく、自生したものでしょう。そばの竹にわらのようなもので結びつけられて、かろうじて立っています。画家は、菊を愛した陶淵明のように、「籬に菊」の風情をひとりたのしんでいるようです。そこに、この画家のこまやかな心づかいと、自然な暮しぶりが想像されます。

たしかに菊花や蕾のかたち、蠶螂の姿態などは精緻に正確に描かれているので、一見、この画は写生画のようです。しかし、よく見るとじつに計算された画面構成が行われていることに気がつきます。竹は濃墨の鋭い筆致で描き、一方、菊は主に中、淡墨の豊潤な没骨描で描いています。ここでは二つの材質感を明確にあらわし、その二つの異質なものを組み合わせ、映発させることによって、すがすがしい生氣をつくり出しています。また竹の不動な垂直線に対して、菊のしなる曲線を配することによって、画面に動きを与えています。そして、地面を描かず、竹と菊の一端のみをあらわし、蝶を追う蠶

螂の飛翔を加えることによって、時空の拡がりを一層感じさせます。

墨竹と墨菊は宋元以来、文人に好まれた画題であり、蠶螂や蝶は、中国の常州地方の職業画工が「草虫図」に盛んにとりあげた素材です。雪村の「竹菊に蠶螂図」はそれらを学びながら、実体験を通して、新たに再構成しているところに面白さがあります。あるいは、花卉などがたゆむというモチーフは、雪村の「竹雀図」「猫に小禽図」「敗荷に鶴鶴図」などにしばしば見られる雪村画の特徴のひとつですので、この「竹菊に蠶螂図」は、初めに「たゆむ」という運動のモチーフがあって、それに雪村の構想力が働いて生まれた作品かもしれません。

次に、「列子御風図」（写真）は、雪村の気力と創造力がもっとも充実していた鎌倉・小田原時代の五・六十歳ごろの作品かと思われます。図は、ハング・グライダーのように、断崖より風に乗って飛び上がった横向き、素足の列子の姿が活写されています。また、画面右上から左下へかけて、雪村の「風濤図」に見られる風が淡墨を用い、刷毛のような筆で一気に描かれています。

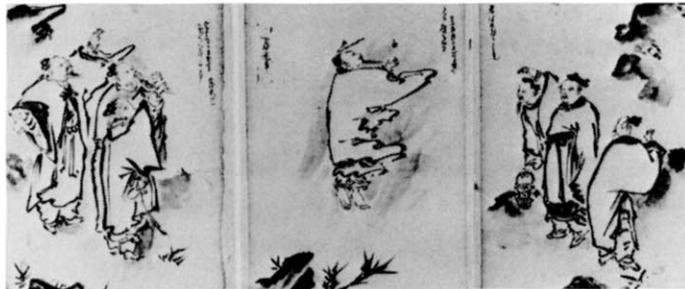
列子は中国の先秦時代の道家で、名は禦寇といい、鄭の人と伝えられています。『列子』黄帝篇と『莊子』逍遙遊によりますと、列子は老商子を師とし、伯高氏を友とし、この二人の道術を究めつくして、風に乗って帰ってきたといい、またあるときは風に乗って遊ぶこと十五日であったといいます。列子

は人に、「風がわが身に乘っているのか、わが身が風に乘っているのかも全く意識しない境地に達し得た」（『列子』福永光司訳）と語っており、このことは禅宗における境地と同じであります。禅宗社会においても、列子は崇敬され、詩に詠まれ、画に描かれてきました。

この「列子御風図」はもともと三幅対形式の中幅にあたり、左右幅にはそれぞれ三人ずつの神仙らしき人物を配して構成されたことが、東京芸術大学所蔵の狩野常信（1636—1713）の縮図（写真）によってわかります。そして、列子の口を「へ」の字に結び、目を速くに放つ独特な顔貌と、風で激しくなびく衣の特異な描写から想起されるのは、京都国立博物館所蔵の雪村の代表作「琴高群仙図」三幅対の左幅の手前の神仙（写真）のそれであります。列子はその神仙と大変酷似しているといえます。そうしますと、「列子御風図」は、「琴高群仙図」の一人の群仙から生み出されたと見ることができます。雪村は、「琴高群仙図」を描きながら、その画の中に別のイメージを見出し、次の新しい作品の構想を練っていたにちがひありません。そして、「琴高群仙図」から「列子御風図」への工夫は、中幅の主要モチーフを三角形の頂点にあて、左右幅のモチーフを中央に集中させるという新しい三幅対形式を創り出すことで、それによって、単幅の大画面よりも大きな時空の拡がりを得ることに成功したのです。

（林 進）

常信縮図 雪村筆列子群仙図（三幅対） 東京芸術大学蔵



竹菊に蠶螂図 雪村筆



◎琴高群仙図(三幅対)左幅 列子御風図 雪村筆

